

放送は通信と融合しているのか、通信に乗っ取られているのか

放送（テレビ）と通信の融合は1970年代にテレテキスト、ビデオテキストとして始まっているが、そのインパクトは限られたものであった。しかし、ケーブルTVの双方向化から始まり、TV番組のインターネットでのストリーミング、コネクテッドTV（インターネットに接続したTV）、Google TVなどのスマートTV等々、この数年間でこうした融合の動きは急速になっている。ついに放送と通信の融合が本格的になったとの見方もあるが、放送が通信に乗っ取られ始めたとの意見もある。

世帯の24%がテレビをインターネットに接続

ケーブルTVの双方向化、それにIPTVがTV放送と通信サービスを大きく近づけたが、消費者に対する影響としてはTV番組のインターネット配信が大きい。2006年にABCが番組を放送翌日からWebサイトで配信を始め、iTunesでの販売も開始した。2008年にはHuluがスタートし、TVで見逃した番組はWebサイトで見るのが一般化し始めている。Netflixのストリーミングサービス「Watch Instantly」の利用者も増え、Netflixをテレビから見られるようにするSTBのRokuが売れ、ストリーミングビデオに対応したテレビ、Blu-rayプレーヤーが登場し、また、ストリーミングビデオのためにPCをテレビに接続する人も増えている。

調査会社のLeichtman Research Groupによると、2010年初めで、世帯の24%がPC、ゲーム機、Blu-ray、インターネット対応テレビ、専用STB等の方法でテレビ

をインターネットに接続していた。こうしたテレビからWebサイトへのアクセスは1996年のWebTVに遡るが、成功はしなかった。TV番組のストリーミングがキラアアプリケーションであった。

iPadで多チャンネル受信やVODサービスを使えるプランも

さらに、単にテレビでインターネットビデオを見るだけでなく、Apple TV、Google TVのようにネットワーク化により、新たな機能を加えようとする「スマートTV」も登場し始めている。また、Verizon、Cablevision、Time Warner Cable等は、Apple iPadに多チャンネルサービスのSTBミドルウェアを移植し、iPad上で多チャンネルサービスを提供する何百チャンネルのTV放送だけでなく、VODなどのすべてのサービスを使えるようにする構想を発表している。

Apple iPadのようなタブレット、あるいはスマートフォン上でSTBのミドルウェアを走らせる考えは、これまでの放送と通信の融合のコンセプトを越えたものである。

Apple TV、Google TVでは、ディスプレイとしてテレビが使われるので、「融合」と言えるが、この構想はテレビ受像機の姿はなくなっている。

このiPadへの「放送」サービスを家庭外で実現させるには、モバイルブロードバンドの容量の増加、それにコンテンツ事業者とのライセンス契約の再交渉が必要になり、すぐの実現は困難であろう。しかし、モバイルブロードバンド網を使い、どこからでも何百チャンネルのサービス、VOD、他の双方向サービスにアクセスが可能になった場合、既存の放送への大きな挑戦になる。

FCCや政府も放送帯域を減らす考え

FCC（米連邦通信委員会）は、9月に未使用のTV放送周波数を無線ブロードバンド向けに免許無しで利用する案を可決している。さらに政府は、National Broadband Planの一環として、テレビ放送の帯域を返上させ、モバイル通信事業者に競売する計画を発表している。放送局は、これら放送帯域を減らす考えは、放送サービスの継続を脅かすものだと反対し、放送の重要性をアピールしている。しかし、モバイルブロードバンドで既存の放送、あるいはそれ以上のことができるのであれば、放送の必要性を疑う声はさらに高まるであろう。

◆ The Compass ニュース ◆



The
Compass

The Compassニュース: 先月号で記事にしたデジタル時代の障害者法が9月末に議会を通過しました。詳細に関しては、NSIリサーチ社のウェブサイト (www.nsiriinc.com) でお読み下さい。『The Compass』はNSIリサーチが出版するアメリカのデジタル放送とインターネットTVの動向を伝える年間サービスです。